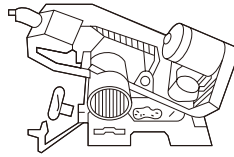
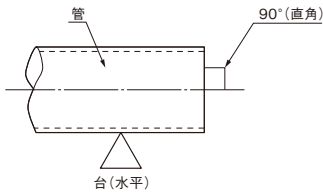


## 標準施工手順「重力排水用 MD」

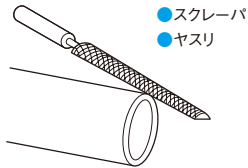
配管施工時は当書の内容を守って下さい。

## 1. 管の切断



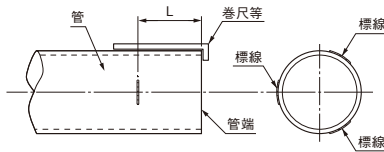
- ① ノコ盤、バンドソー、チップソー等で、管を直角に切断してください。

## 2. 管の端面処理



- ① 管端、内外面のバリを、C面1mm程度取ってください。  
(切断面のバリやカエリは、パッキン損傷による漏水の原因になります。)
- ② 管内面、外面、端面に付着した水分、切粉、異物を除去してください。(切粉や異物は漏水の原因になります。)

## 3. 標線記入

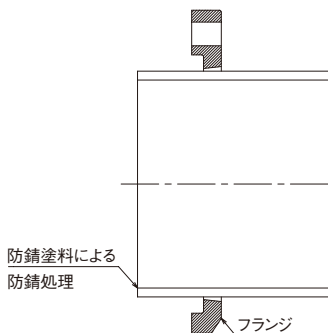


- ① 管端から|表-1|に示すL寸法の位置に標線を記入してください。  
(標線は管の外周に等分3箇所記入してください。)

表-1 単位: mm

呼び	L
1 1/4	33
1 1/2	34
2	38
2 1/2	43
3	47
4	53
5	61
6	64
8	75

## 4. フランジのセット



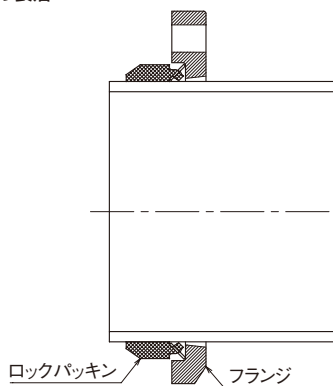
- ① 管端からフランジを図のようにセットしてください。  
注) 漏水の原因になりますので、本体、パッキン、フランジを先に組んでから管を挿入しないでください。

## 5. 管端部の防錆処理

- ① 管端部に防錆塗料を塗布してください。

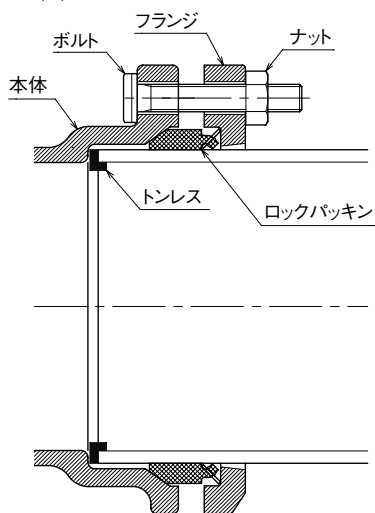
注) 管の端部には JIS K 5551: 91(エポキシ樹脂塗料)の2種に規定する耐塩水噴霧試験に適合した防錆塗料により十分な防錆処理を行ってください。

## 6. パッキンの装着



- 1 ロックパッキンを図のようにセットしてください。

## 7. ボルトの締め付け



- 1 管の先端を継手本体に挿入してください。
- 2 先に記入した標線がフランジ上面と平行に一致するようにして片締めにならないよう、均等に締めてください。(締め付けトルクは|表-2|を参考にしてください。)

注)温排水等による管の伸びに対応するため、本体と管端部の間に3mm程度の隙間を設けてください。  
隙間を設ける方法の一例として、トレス(水溶性樹脂)をご使用ください。

表-2 ボルトの標準締め付トルク

呼び	kgf・m	N・m
1 1/4	1.3	12.7
1 1/2	1.3	12.7
2	1.5	14.7
2 1/2	1.5	14.7
3	3.0	29.4
4	3.0	29.4
5	4.5	44.1
6	4.5	44.1
8	7.5	73.5

## 8. 確認のすすめ

- 1 フランジが標線に沿って水平に締まっているか！
- 2 ボルト、ナットに緩みはないか！
- 3 ボルト、ナットが片締めされていないか！  
(確認が済んだ箇所には、確認済みの印を付ける事をすすめます。)